



南極ものがたり

No.13



◆ 安全講話: 応急処置実習

17日、応急処置実習をおこないました。15日に「南極における医療・応急処置」の講義を受けましたが、その実技編です。森川、西山医療隊員の指導のもと、隊員が怪我をして倒れたという想定下、数名ずつのグループに分かれ、事故時の初期対応及び低体温ラッピングの実技講習です。初期対応はABC（A：airway（気道確保）、B：Breath（呼吸の確認）、C：Circulation（出血の有無））を確認することから始まります。野外では危険と隣り合わせです。皆、真剣な表情で処置方法を学びました。その後、救急箱の薬について説明を受けました。



2015.12.17.

◆ 南極で俳句を詠もう

松山にある出版社、マルコボ.コムから「100年俳句計画」という月刊誌が発行されています。今回の南極派遣にあたり、「南極で俳句を詠んでもらえませんか？」という依頼を受けました。隊員の方々に、出版社から頂いた「みきゃん俳句手帳」をお配りし、しらせ航海中に詠んでいただくことにしました。今までの『南極ものがたり』で何度か俳句を掲載していましたが、そのような経緯があったのです。

史上初?の南極吟行句。南極で俳句を詠むなんて、正岡子規もビックリ!

ここで一句。「揺れ動く船も心も投句箱」



◆ JARE57 隊員紹介

西山 幸子 (37) 越冬隊 医療担当 神奈川県出身
聖マリアンナ医科大学

自治医科大卒。外科が専門。医科大卒業後は、県内の診療所等で勤務。1年前より聖マリアンナ医科大で救急医療に携わっている。日本 DMAT 隊員でもある。映画「南極料理人」を見て、医者でも南極へ行けることを知り、思いが募った。東日本大震災時、釜石に支援中、南極への憧れを語ったところ「夢は口にした時点で、半分叶っているんだよ」という言葉を仲間からいただき、夢実現のきっかけとなった。今回の派遣にあたり、歯科講習や血液分析器の操作、麻酔等について、また、基地設営に備え生コン実習もおこなった。「野外活動や極夜明けの太陽を見るのを楽しみにしています」とおっしゃっていました。



救急物資の説明をする西山隊員

◆ しらせ農園

しらせ船内では、単調になりがちな船上生活に変化やメリハリをつけようと様々なイベントが催されます。写真は、補給科主催の「しらせ農園」の案内です。カイワレを育てる人を募集しています。観測隊の西山隊員もチャレンジしました。種類の違うカイワレで見事に「57」の文字が浮き出ているのわかりますか？



◆ 南極トリア

右写真は、しらせ船内のトイレの入口です。左上に黄色灯が見えると思いますが、これは何のためにあるのでしょうか？

- ① トイレ用火災報知器
- ② 満員時連絡灯
- ③ 硫化水素検知器

